

平成24年度3学期始業式式辞

新年明けましておめでとうございます。今年が皆さんにとって素晴らしい1年となることをお祈りします。

最初に嬉しいニュースを紹介します。先の12月に行われた県の公立高校バレーボール大会で本校男子バレー部が見事準優勝となりました。部員の皆さんの健闘を讃えたいと思います。

さて、3年生の皆さんはこの冬休みの間もお正月返上で19、20日に行われるセンター試験や大学入試に向けての勉強に頑張ってきたことと思います。三が日の間も、学校の図書館で猛勉強していた人たちもいました。皆さんの努力が実を結ぶことを心から祈ります。

今日は、星野富弘さんの詩を紹介します。皆さんの中には星野さんのことを知っている人も多いと思いますが、少し紹介をしておきます。星野さんは現在66歳です。中学校の保健体育の教師になってわずか2ヶ月後に頸椎損傷で首から下の自由が奪われ、9年間の入院を余儀なくされました。その間、絵筆を口にくわえて詩や絵を描き始められ、多くの詩画集を出されています。

今日紹介する作品は、『いのちより大切なもの』という本に収められているものです。

土を見つめよう
どんなに時代が変わろうと
土からは同じものが
同じ時間をかけて芽生える
何十年も何百年も
生きているものばかりだ

土から生えたものを食いながら
人だけが
なぜそんなに急ぐ

昔から花も米も野菜も1年のある決められた時期に種を撒かれると、決まった時期に花を咲かせ、実を結び、収穫の時期を迎えます。星野さんは「花には花の時間がある。・・・人間がいくら早く咲かせようとしてつぼみを無理やりこじあけても、枯れてしまうだけです。人間が考えた最新の機械であったとしても、土から生まれるものを速くすることはできません。・・・」と言い、自然界の中で人間だけがあまりにもスピードを求めて急ぎすぎていることに疑問を投げかけています。

花は本来必要とする時間の中で、太陽のエネルギーをもらい、水や養分を吸いながら深く根を張り、やがて時期がきて美しい花を咲かせる。ならば人間も自然の一部である以上、花と同様に、本来、人間の時間で生きていくのが自然だと言えます。経済の発展やテクノロジーの進歩は私たちに時間の短縮や便利さ、快適さをもたらす一方、「遅いこと」、「時間をかけること」、そして「待つこと」をネガティブに捉えさせ、人間として過ごすべき時間を忘れさせているのではないのでしょうか。

人間の時間、人間のリズムとはいかなるものでしょう。じっくり考えることができる生活を送る。「待つ」ことが苦痛ではなく、楽しみと感じられるような感覚をもって暮らすことができる。そのようなものでしょうか。

皆さんは今まさに、心身ともに成長の過程にいます。じっくり根を深く張って、身体、心、頭にゆっくり、たっぷり栄養を取る時期です。あせらないで、時間をかけることを大事にしてください。短時間で効果が上がるといううまい話にはのらないで、じっくり時間をかけて努力する方を選んでください。学習で言えば、分かるまで何度も何度も繰り返して勉強すること、スポーツで言えば、ある技をできるまで何度も何度も繰り返して身体に覚えさせることです。そのように時間をかけながら積み重ねていくことで、やがて大きな花を咲かせ、自分の夢を叶えることができるのです。

今年が皆さんの夢の実現に向けて充実した1年になることを祈念し、式辞と致します。

平成25年1月7日
滋賀県立虎姫高等学校長 西嶋博純